

2021 年度 アメリカンフットボール部 メンバーインタビュー

部員数

41～60人

所属学群

人文・文化学群, 社会・国際学群, 人間学群, 生命環境学群, 理工学群, 情報学群, 芸術専門学群

練習場所

セキショウフィールド

主な成績

2020関東学生リーグ戦2部Aブロック2位

2019関東学生リーグ戦3部Bブロック1位&入れ替え戦勝利
2部昇格



河野達也（数学4年）

大橋陽海（社会3年）

— 私が目指す「アメフト」

河野

アメフト部は学生主体で行うことをモットーに活動しています。コーチや監督から指示を頂くこともありますが、一部昇格という目標に向け、今何が足りなくて、どういうことをやっていかなければならないのか、何が必要なのかなどについて自分たちで考えて活動しています。

私は、オフENSEブラインという100kg超の選手の多いポジションを務めています。オフENSEブラインは、アメフトのポジションの中でも、ボールを触ってはいけないポジ

ションです。そのなかで、ボールを持って走る人やパスを受け取る人のために体を張ってブロックし、チームを支えるという面白さがあります。

大橋

学生主体で活動できるというのは、私がアメフト部に入部した理由の一つでもあったので、この部の魅力だと思います。また、私立の大学と異なり、筑波大学のアメフト部は大学からアメフトを始めた部員が多くいます。アメフトを始めた理由がそれぞれなので、その分、一つの方角に向く難しさはありますが、色々な考え方があるというのは逆に強みでもあるのかなと思います。部員みんなで一つの方角に向いていけたらと考えて活動しています。



— 筑波大学をどう思っていた？

大橋

大学受験で二回浪人しているのですが、実は二度目のセンター試験が終わるまで、一度も志望校に書いたことがない大学で、まさか筑波大学に来るとは自分でも思っていませんでした。高校の時は、スポーツが盛んで田舎の方にある頭のいい大学だなというような印象を持っていました。

河野

私は将来、教員を目指しているのですが、教員になる上で筑波大学は優れている部分があると思っています。また、大学でスポーツに打ち込みたいという希望もあったため、教職課程も取りながら、体育会の部活動も両立して自分を磨きたいと思い、この大学を志望しました。

— 今のチームで学んだこと、チームの好きなところ

河野

このチームの好きなところは、色々な選手がいることです。アメフトの競技特性もありますが、体型や得意な分野も異なり、考え方も人それぞれ違うので、自分が持っていなかった考え方が、ミーティングなどを通して生まれてきました。

アメフト以外の場でも人間として自分自身がすごく成長させてもらっていることを感じています。個性が強いという良さがあり、自分を育ててくれる場だなと感じています。

大橋

様々な背景を持ち、色々な理由でこの部活に集まっているので、多様な考え方があります。自分自身とは全く考え方の異なる人とも、練習内外で活動や話し合いを重ねていくというのは、アメフト部に入っていなければ経験できなかったことなので、そこが一番学んだことかなと思います。



— これからの目標（直近の目標、人生の目標）

河野

今年のチームの目標は「一部リーグ昇格」です。この目標を達成するための日々の指針として「オールアウト」というスローガンを掲げています。みんなで声を掛け合いながら、一日一日全力を出し切るということを大切に活動しています。

将来の夢は、先ほども述べた通り教員になることで、部活で学んだことも活かしながら指導していけたら良いなと思っています。

大橋

私は今3年なので、今年一部に昇格し、来年4年になったときに、一部で戦いたいという思いでやっています。自分自身の進路としては、就職し、社会人になってもアメフトに関わっていきたいなと思っています。



— 未来のチームメイトに一言

大橋

色々なポジションがあり、色々な適性があり、誰でも輝けるというのがアメフトの特徴であり、魅力です。どなたでも活躍できる、そんなスポーツです。一緒に『一部』を目指しませんか？

河野

高校から続けている人が多い部活動もたくさんありますが、アメフト部は新しいことにチャレンジしたいと、大学から始める人が多くいます。

アメフトの競技の特性として、走るのが苦手でも体が大きかったり、逆に体は小さくても足が速かったり、ボールを遠くに投げることが出来たりと、自分の得意なことが一つでもあれば、輝けるポジションが必ずあります。自分の得意なところやチームメイトの得意なところを生かしながら、支えながら出来るというのがアメフトの良いところだと思います。

ぜひグラウンドに足を運んでみてください！

